

## 平成 30 年度実績 目標の評価と今後の方針

### 目標1 産業が芽吹き伸びゆく、「しごとづくり」と「ひとづくり」の実現 ～ しごとの創出と確保 ～

しごとの創出と確保のため、市内企業の競争力強化と起業・創業・企業立地の推進、農林業の魅力向上、求職者としごとのマッチング支援に取り組みました。

起業・創業支援の推進に関しては、実践起業塾の卒業者による新規創業数は7件となり、同塾卒業後のフォローアップの取組の成果が徐々に表れ始めており、移住者起業支援金事業においても6件の利用がありました。

農林業の振興に向けては、新規就農者数は累計 155 人となり順調に増加していますが、販売農家数の減少や農業従事者の高齢化は続いており、農業研修センターを活用した新規就農者支援や農業の収益性の向上に向けた果樹の新品種・新技術導入などに取り組むほか、平成 30 年度より開始した親元に就農する方への支援を継続して実施します。6次産業化の取組については、農業者と事業者・学術機関との連携や観光との連携の促進が求められます。森林資源の活用に向けては、木材の消費の拡大に課題がみられる状況ですが、地域団体などによる森林整備活動は徐々に拡大しています。

若い世代の就職支援及び雇用の促進に向けては、これまでも長野地域9市町村で長野地域U J I ターン就職促進事業により取り組んできましたが、人材不足は長野地域の共通の課題であることから行政だけでなく地元企業との関わりが深い商工団体等が参加する「長野地域若者就職促進協議会」により、地域全体で東京圏在住の若者を中心としたU J I ターン就職の促進に取り組めます。

### 目標2 魅力を高め、ひとを惹きつける、ふるさと「ながの」の実現 ～ 移住・定住・交流の促進 ～

年齢階級 15～34 歳の社会増減については、転出超過の幅が拡大し 376 人の転出超過となっており、依然としてマイナスの状況が続いています。

若者の地元定着・回帰のためには、地域への愛着や活躍できる仕事が必要です。地域への愛着は、行事などに参加し地域を知ること、恵まれた自然の中で様々な体験を積み重ねること、そして地域で生き生きと活躍する大人の姿を見ることによって醸成されます。子どもの健全育成のために実施する体験活動については、少子化や担い手の高齢化など、状況の変化への対応が求められています。若者のUターンについては、学生向けUターンセミナーの受講者数は順調に推移していますが、企業での採用者の確保は依然

として厳しい状況であり、若い世代の就職支援及び雇用の促進に向けて、長野地域 9 市町村と商工団体等が参加する「長野地域若者就職促進協議会」により、地域全体で東京圏在住の若者を中心とした UJI ターン就職の促進に取り組めます。

移住促進については、移住に関する相談件数が昨年度より増加するなど、順調に推移しています。移住を促進するためには、それぞれのニーズにあった情報を適切に発信していくことが求められています。また、移住した後も地域への定着を図るために、移住者同士の交流の場を設けるなどアフターフォローの体制を充実させることが必要です。

文化・スポーツによる交流人口の増加に関しては、南長野運動公園総合球技場の利用者が伸び悩んでおり、ホームグラウンドとしている AC 長野パルセイロのホームゲームの観客数を伸ばすための工夫のほか、新たな大会の誘致など利用者増加に向けた取組が必要です。また、南長野運動公園総合球技場に限らず、大規模施設を活用した信州ブレイブウォリアーズやボアルース長野フットサルクラブなどのプロスポーツチームの支援を通じたコンテンツの強化により、市外からの来訪者を増やす取組が必要です。

### 目標3 「ながの」で結ばれ、はぐくみ、育つ、若い世代の想いの実現 ～ 少子化対策・子育て支援 ～

未婚化や晩婚化が進んでいる中で、若い世代の結婚の希望をかなえるためには、結婚に対して前向きになれるような取組が必要です。結婚セミナーの参加者のうち、より積極的に婚活をしようと思う人は 9 割を超えており、セミナーに参加することにより結婚に向けた意識を高めることができます。今後、セミナーの内容を充実させるとともに、結婚を応援する市民ボランティア（夢先案内人）を増やし、更なる結婚機運の醸成を図る必要があります。

子育てについては、さまざまな取組の積み重ねが子育てに対する安心感につながります。母子保健コーディネーターの配置、子育てパスポート協賛店舗数、子育て支援員の認定数などは目標達成に向け順調に推移しており、はじめまして!赤ちゃん事業、乳幼児健康教室参加率、子育て支援センター実施箇所数については、目標達成に向けては今一步の状況ですが、昨年度より前進しています。出産・育児から教育までの本市のさまざまな支援策について、今後も対象となる方へきめ細かく情報を届けることが必要です。

仕事と子育ての両立について、男性の家事及び育児への参画に関する項目の実績では後退もしくは伸び悩んでおり、個人だけでなく、企業などへのアプローチを進めるなど啓発手段の工夫が求められています。

将来の夢や目標を持っている児童や生徒の割合は、小学校で 83.7%、中学校で 71.1% となり、前年度からほぼ横ばいでした。こうした中で、長野市コミュニティスクールの導入による学校と地域のつながりの強化については、これまでの取組の成果の効果が見

られ、順調な進捗となっています。児童・生徒のやる気を引き出し、夢や目標を持つことにつながるために、今後も自然環境など地域資源を活用した特色ある多様な体験活動や学校ごとの特色を生かしたきめ細かな学習機会の提供が引き続き必要です。

#### 目標4 あふれる「宝」を活かし、安心して住み続けたいまちの実現 ～ 住みやすい地域づくり ～

生活機能の拠点化については、居住誘導区域内の人口密度は横ばい傾向であり、今後の人口減少を見据えた暮らしやすい地域づくりやインフラ維持のコスト面からも、取組の強化が必要です。

市民が主役の地域づくりの推進では、多様化する地域社会の様々な課題に対応するため、行政だけでなく、NPO法人や地域活動団体などの多様な主体によるまちづくり活動の活性化が引き続き必要です。ながのまちづくり活動支援事業への応募団体数は前年度より7件多い19件の応募があり、課題意識を持ってまちづくり活動に取り組む意識の高まりがうかがえ、目標の達成に向け前進しています。今後も、地域づくりの主体となる住民組織への支援を中心に、住民とともに地域の魅力向上に取り組みます。

地域の遊休不動産等のストックや地域の特産品といった地域資源の活用については、空き家バンク事業や関係団体と連携した中心市街地の遊休不動産活用で、目標の達成に向け順調に推移しています。

また、長野市ジビエ加工センターが令和元年度から稼働したことにより、個体数調整用に駆除した野生鳥獣の解体処理能力が大きくなることから、ジビエの流通ルートの確保など消費拡大に向けた取り組みを進めます。

奥裾花自然園におけるマイクログリッドによる電力供給は、平成30年度に施設が完成したことから、発電を開始し、電力供給率100%を達成しています。